

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和2年度 第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和2年5月29日(金) 14時00分～16時00分

2. 会場

北海道森林管理局 4階 中会議室

3. 検討結果

「国有林材については、供給調整の必要がある」との結論に至った。

具体の対応策としては、「立木販売の搬出期間の延長」及び「立木販売の公売時期の後ろ倒し」を行うこととした。

4. 主な意見等

- 米中貿易摩擦、消費税増税、新型コロナウイルスの影響により4月時点での原木需要が減少。これに伴い原木在庫量は増加の傾向。リーマンショック時以上の影響を懸念している。
- 業界から、立木販売の搬出期間延長についての要望が多数出ている。消費税増税、米中貿易摩擦等の要因に加え、新型コロナウイルスが及ぼす負の影響は予測がつかないため不安。その一方で、輸出等の動きが今後出てくると原木が足りない状況も想定される。
- カラマツへの影響はまだないが、トドマツの梱包材、合板に向けた需要が厳しい状況。
請負の生産量の調整を行わないよう要望する。その上で、原木が売れない場合には、中間土場等に貯材してはどうか。
- 新聞用紙等の需要減により、製紙需要が低下している。ただし、原料材の余剰分はバイオマス発電用として活用しているので、原料材が余ることはない。

○ ここ数年間は原木が不足気味だったが、今年からは潤沢に入ってきている。なお、現在のところ受け入れ調整は行っていない。

今の状況が新型コロナウイルスの影響なのか、昨年からの景気の減速なのか不明だが、今まで順調過ぎた分、今の状況が本来の姿のような感がある。

建築分野への影響が波及して、7月、8月に製材需要が落ちてくる可能性を想定。この場合は工場の生産調整もありえる。

川上全体が一斉に素材供給をストップすると、原料不足となることも考えられるため、どちらにも対応できる体制、方法を考えておく必要がある。いずれにせよ、極端な動きを最も憂慮する。

○ リーマンショックから、通常の状態に戻りつつある時に、原木の供給を十分受けられず、製材品の需要に応えられなかった経験をしている。その時の反省を生かさなければならない。川上側も厳しい状態にあると思うが、川下側と一体となって取り組む必要がある。

○ 原木を町場に近い保管場所に移動し殺虫剤を散布するなど、品質低下防止策を講じることも検討してみてもどうか。

○ 供給調整検討委員会は3ヶ月ごとの開催だが、刻々と状況は変化している。必要に応じて柔軟な開催をお願いする。